

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第38号 2019年10月1日

「人々を笑わせ、考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞。今年は、小児歯科医でもある渡部茂・明海大教授らのチームの論文『5歳児の1日の唾液生産量の推定』が「化学賞」を受賞しました。日本人の受賞は13年連続となるそうです。唾液量は重要な情報ですが子どものデータはなかったため、自らの子供3人を含む5歳児の唾液の量を地道に量り、1日当たり500mlであることを数年がかりの研究で突き止めたそうです。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第38号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆第42回コンサート
- 【2】 今後の予定（先取り情報）
 - ◆第43回コンサート
 - ◆第44回コンサート
- 【3】 ギターにまつわるエトセトラ♪
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■■第42回コンサート■■

- ◇2019年11月17日（日曜日）
14:00開演（13:30受付開始）
- ◇出演：熊谷俊之（ギター）、堀雅貴（マンドリン）
- ◇プログラム（予定）
 - [ギターソロ]
 - ◆N. コスト：ジュラの思い出 アンダンテとポロネーズ Op. 44
 - ◆F. シューベルト（J.K.メルツ編）：涙の賛美／セレナーデ
 - ◆H. ヴィラ＝ロボス：ブラジル民謡組曲より
 - ◆A. ピアソラ：天使の死
 - [ギター・マンドリンデュオ]
 - ◆W. アルトホフ：舞踏への夢
 - ◆C. ムニエル：スペイン風奇想曲
 - ◆M. ジュリアーニ：協奏的大二重奏曲 Op. 85
 - ◆A. ピアソラ：「タンゴの歴史」より「ポルデル1900」
- ◇料金：大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
- ◇会場：大倉山記念館ホール

第42回ジョイフルコンサートは『熊谷俊之×堀雅貴 ギター・マンドリンコンサート～織り成す撥弦楽器の響き』と題して、お届けします。

熊谷俊之さんからメッセージが届いています

みなさま初めまして、ギタリストの熊谷俊之です。
この度は大倉山ジョイフルコンサートに出演出来る事を大変嬉しく思います。
今回のコンサートは、日本を代表するマンドリニストである堀雅貴さんをお迎えし
ギターソロとギター&マンドリンのデュオという2つの編成で構成しました。
ギターとマンドリンのデュオは大変珍しい組み合わせですが、同じ撥弦楽器として

たくさんの共通点を持っており、2つの楽器の音色が重なり合う響きはきっと皆様にも楽しんで頂ける事と思います。どちらの編成もオリジナルとアレンジもののプログラミングになっておりますので、それぞれギター、マンドリンの面白さも感じられる内容になっております。当日は一人でも多くの皆様とお会いできるのを楽しみにしております、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第42回のジョイフルコンサートはギターとマンドリンのコンサートです。段々寒くなる季節にぴったりのホッとできるプログラムだと思いました。どうぞお楽しみになさってください。

● H. ヴィラ＝ロボス / ブラジル民謡組曲より

☆ H. ヴィラ＝ロボス

ヴィラ＝ロボスはブラジル出身の作曲家です。独学で作曲法を学び、クラシックの技法にブラジル独自の音楽を取り込んだ作風が特徴とされています。

ヴィラ＝ロボスの父は歴史学、天文学の大学教授で、アマチュア音楽家としてチェロ、ギター、クラリネットを弾きこなす知識人だったそうです。その父からとピアニストの叔母から音楽を学びました。叔母はヴィラ＝ロボスが小さい頃からバッハの「平均律」を弾いて聴かせ、バッハについて語っていたそうです。すでに12歳の頃にはクラリネット、ギター、サクソフォンをマスターしていたとのことで、やはり天才的な才能を持っていたと言えると思います。

不幸なことに12歳の時に父親が亡くなり、カフェでチェロを弾き生計を立てなければならなくなってしまいます。ただその間父が残した膨大な蔵書を買ってしまい、仲間達との飲み代に充てていたというエピソードもあります。未成年なので事実かどうかはわかりませんが。

18歳の時ブラジルの東北部を回り、地方に伝わる民謡を収集します。先住民インディオや奴隷として連れてこられた黒人、更にポルトガルの移民たちとそれぞれが生命力あふれる民謡が混在していました。この経験がヴィラ＝ロボスの作曲活動に大きな影響を与えました。

この旅行後伝統的な作曲法を学ぶため、リオデジャネイロの国立音楽院に入りますが、既に民謡を用いた作曲に目覚めていたヴィラ＝ロボスには旧来の音楽は物足りなかったのか結局半年で退学してしまいました。

その後またブラジルの放浪の旅を続け、そこで出会った音楽一座に加わってチェロを演奏しながら作曲も続けます。30歳までに100曲近い様々な曲を作り、演奏会を開くのですが前衛的だと社会から受け入れられることはなく不遇の時期を過ごします。

転機となったのはフランス人作曲家のダリウス・ミヨーと世界的ピアニストルービンシュタインとの出会いでした。ヴィラ＝ロボスはフランス音楽を学び、世界がヴィラ＝ロボスの音楽を評価することでブラジル国内もヴィラ＝ロボスの音楽を高く評価するようになっていきました。

ヴィラ＝ロボス自身もフランスに渡り、ピカソ等の芸術家と親交を深め、ルービンシュタインの紹介で楽譜を出版するなど更に世界に彼の音楽が広まっていきました。

パリから帰国後ヴィラ＝ロボスはブラジル音楽文化の発展に尽力します。サッカー

王国ブラジルの人達に講演会で「フットボールにばかり凝っていると馬鹿になる。」などと言ってトラブルになったこともあったそうです。

ヴィラ＝ロボスの夥しい作曲数は1000とも2000とも言われ20世紀最大とも言われているそうです。お恥ずかしいことに正直知りませんでした。ピアノ曲はいつか弾いてみたいです。

☆ブラジル民謡組曲

ギターの温かい音色がとても心地よく響いてくる曲だと思いました。本当に季節的にピッタリではないでしょうか？全曲とても素敵です。この曲集を使ってちょっとしたドラマ仕立てのバレエ動画が紹介されていました。音楽もとても効果的に使われていて素敵なのでお時間がある時にご覧になってください。(A.N)

<https://www.youtube.com/watch?v=trKh1yWmJJg&t=7s>

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■第43回コンサート■■

◇2020年1月19日（日曜日）

◇出演：黒田鈴尊（尺八）、平田紀子（箏・三絃）、寺井結子（箏・三絃）

◇プログラム（予定）

◆尾上の松：作曲者不詳（宮城道雄箏手付）

◆桜川：光崎検校

◆戯曲：三善晃

◆断章Ⅰ：細川俊夫
他

★予約受付開始：2019年11月18日（月曜日）午前9時より

■■第44回コンサート■■

◇2020年3月15日（日曜日）

◇出演：カルテット・アマービレ（篠原悠那 Vn、北田千尋 Vn、中恵菜 Va、笹沼樹 Vc）

【3】ギターにまつわるエトセトラ♪

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスのように弓で弦を擦って音を出す楽器を「擦弦（さつげん）楽器」と呼びます。これに対して、クラシック・ギター、リュート、マンドリン、ハープのように指で弦をはじいて音を出す楽器を「撥弦（はつげん）楽器」と呼びます。撥弦楽器は、擦弦楽器のように音を持続することができませんが、和音など同時にたくさんの音を奏でることができます。

マンドリンはイタリアで誕生したもので、リュートから「マンドーラ」が開発され、それから小型のマンドリンになりました。イタリア民謡のカンツォーネにかかせない楽器ですが、現在はアメリカのカントリーミュージックなどでも使われています。同じ音の弦が2本ずつ（複弦）4組で、計8本張られています。高音側からE、A、D、G（ミ、ラ、レ、ソ）です。ギターと同じように持続音が出せないの、金属弦をピックではじいてトレモロ奏法（速い往復運動）で演奏します。

1786年に作曲されたモーツァルトの歌劇『フィガロの結婚』の第2幕のケルビーノの有名なアリエッタ「恋とはどんなものかしら」は舞台上、スザンナのギ

ターの伴奏によって歌われます（実際の音はオーケストラの弦楽器によるピッツィカート分散和音で演奏されますが）。モーツァルトはギターオリジナル曲は書いていませんが、18世紀末までギターはポピュラーな歌やセレナードの伴奏楽器として庶民から愛用されていました。ただこの時のギターはバロック・ギターと呼ばれるもので、現在のギターとは異なります。

18世紀後半にギターは現在と同じ6弦の楽器になり、ギターの名手でもあった“ヴァイオリンの鬼神”パガニーニはたくさんのギター曲を作曲していますし、シューベルトは常に手許に置いていたギターで歌曲を書いていたそうです。

しかし、1810年頃から普及し始めたピアノが、1830年頃には豊かになった市民の家庭に広まっていき、また楽器の改良によるオーケストラ音楽が新しいコンサートホールで身近に聴かれるようになると、音量も音域も劣るギター音楽は活動の幅が狭められるようになっていきました。

停滞していたギター音楽を復活させたのが、『アルハンブラの思い出』を作曲したフランシスコ・タレガ（1852～1909）です。オリジナルの名曲も書きましたが、バッハやショパンやアルベニスのピアノ作品などを編曲し、ギターの新しい魅力を引き出しました。

ロマン派から近代にかけてギターはオーケストラ楽器でなかったために、ギタリスト以外の作曲家がギター曲を書けなかった時代がありましたが、20世紀に入ると様々な国の作曲家がギター曲を書くようになりました。

20世紀後半になって、現代音楽が前衛的で理解しにくくなっている中、ギター音楽は中南米や世界各地の音楽を幅広く取り入れることによって、新作がクラシックの他のジャンルに比べて聴き手に受け入れられやすくなっているように思います。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（9月15日公演）

『戸澤采紀ヴァイオリンリサイタル～バッハとヴィルトゥオーゾの響宴』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」が69%、「良かった」が17%（残りは「無回答」13%）で、今回もとても好評でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『チャイコフスキーは明るく楽しく、バッハは情熱的な感じを受けました。ラストのロンド・カプリチオーソ圧巻でした！』『無伴奏の長い曲、あれだけの曲を暗譜なさっていて尊敬しました』『第二部とても良かったです。特にブロッホは初めて聴いた曲でしたがとても良かったです』『一般的に「聴きづらい」と言われている無伴奏の曲をたくさんとりこんでいましたが、とても魅力的な演奏で素晴らしかったです』など率直な感想が寄せられました。

また、『いつも良い演奏者に近くから生演奏を聴くことができ感謝しています』『素敵なホールでアーティストの演奏が楽しめる。それにティータイムも嬉しい』『すごい!!国際的なトップレベルの演奏を聴かせていただきました!!』など、好意的メッセージが数多く寄せられました。

一方、『エアコンの音がうるさかった。…冷房が効きすぎて寒かった』との苦情もありました。そのため一部のお客様には、途中で中ほどの席に移って頂きました。舞台上は暑く、汗で楽器が滑る状態であったため演奏者の要望で冷房を効かせておりました。エアコン調整に関しては客席との両立がなかなか難しく主催者にとっていつも悩ましいところです。アンケート回収数：52（回収率65%）

【編集後記】

受付開始前の「立ったままの待ち時間」をできるだけ減らすため、前回のコンサートから、試験的に「番号札」方式を導入しました。

アンケートでは複数の「良かった」を頂きましたが、まだ慣れていないため
番号順受付に遅れる場面もありました。「ご案内」を工夫してまいりますので、
お客様のご理解・ご協力をお願いします。(お)

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込みはこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール info@ohkurayama-joycon.com
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
